

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4391500065		
法人名	医療法人社団 孔和会		
事業所名	グループホーム 桜ん里		
所在地	天草市河浦町白木河内116-1		
自己評価作成日	平成29年2月17日	評価結果市町村受理日	平成29年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」
所在地	熊本県熊本市中央区水前寺6丁目41-5
訪問調査日	平成29年3月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域密着型サービス事業所として、理念である「今を心地よく、私が私らしくあるために」を実現する為、認知症になっても住み慣れた地域で穏やかに安心して過ごせる事を目指している。その為に、地域が認知症への理解ができ、良き支援者となって頂けるよう家族介護教室・講演会や地域交流の機会など色々な場を通じて認知症についての知識や対応方法などの情報提供を行っている。施設行事には、地域の方に声掛けし、逆に地域行事には入居者様もご家族と一緒に参加したりと地域との交流を深めている。終末期においては、その人がその人らしく最期まで過ごせるようご家族と情報提供し合いながら、出来る限り一緒の時間を過ごして頂き穏やかな最期を迎えられるように取組んでいる。当施設は、認知症介護研修施設として年間を通じ研修生を受け入れ、研修終了後も相談等に応じてい

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

静かな環境の中地域密着型サービス事業所「桜ん里」があり、「今を心地よく 私が私らしくあるために・・・」を理念とし常に利用者を中心にしたケアを心がけた支援が行われている。医療法人孔和会の5事業所との連携の基、地域に認知症への理解を深めるための家族介護教室や講演会を開催や地域行事への参加により、家族や地域住民の信頼関係に繋がっている。終末期の対応については、その人がその人らしく過ごせるよう家族と情報を共有しながら、穏やかな臭気を迎えられるような取り組みを行ない家族の信頼を得ている。認知症介護研修施設として年間を通して研修生を受け入れるなど認知症介護施設としての活躍を行なっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内の目に付く場所に理念を掲示し、定期のカンファレンスの時に、理念をふまえた介護が実践できているかを振り返り、日々の介護に活かすようにしている。	「今を心地よく、私が私らしくあるために」を理念とし、如何にして[その人がその人らしく]、「今」を心地よくいきいきとした生活のケアを目指し、一人ひとりを大切にの思いを全職員共有し実践に繋げているか、カンファレンスの折、振り返りケアについて意見の統一を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域活動である神社清掃への参加。また公民館にて元気体操の実施。 施設行事のカラオケ大会、ソーメン流し等地域との交流を図っている。振興会と共に菜の花や、ひまわりの種まきを行っている。	地域行事には積極的に参加し、ホームの行事も回覧板や運営推進会議等で参加を呼びかける等交流を深めている。家族介護教室や認知症サポーター養成講座・音楽療法等、多数の地域住民の参加を得、認知症への理解者が増え、各種団体の核となる人も増えており、地域の認知症相談所としての活動も見られる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族介護教室にて地域の方達に参加頂き、認知症の理解や介護方法を伝えている。 また、キャラバンメイトの一員として地域に出向き、サポーター養成講座も実施している。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議にて、入居者様の日常の様子を報告したり、事故報告、新人スタッフの紹介など行うと共に、推進委員様から頂いた意見は、スタッフにも伝え話し合い改善対策など行っている。地域情報も寄せて頂ける場となっている。	利用者家族や地域住民代表・行政等多様な委員で構成され、職員と法人の理事長が出席し、理事長は挨拶で介護保険や高齢化社会への制度等の情報をわかり易く説明している。活動状況として、行事の経過や予定・事故や苦情の状況等が報告され、各委員横の繋がりで意見交換が行われサービスの向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に地域包括支援センターの出席もあり、また随時包括からの相談(困難事例)に乗り、解決へと結びつける努力をしている。又、サポーターフォローアップ研修等の講師依頼にこたえたり、市と共に今後の地域作りの話し合いも行っている。	包括支援センターから運営推進会議への出席もあり、困難事例等の相談等にも協力依頼を受けている。認知症サポーター研修・フォローアップ研修への講師依頼や参加人員の増加等の協力もあり、県・市行政との信頼関係が構築されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜間のみ。身体拘束については、法人全体で勉強会を行い、スタッフ全員で身体拘束をしないケアを行っている。	法人全体で勉強会を実施し、職員全体が注意し合い、拘束のないケアの実施が行われている。家族からの希望があても拘束をしない工夫を重ね、「心地よく」を基本に全体で見守り拘束のないケア実現に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体での虐待防止に向けての勉強会や、入居者様の身体の状況や表情など観察しながら防止に努めている。利用者の方が自らぶつけて作ったアザ等についても、発見者が報告書を挙げ、全体で見守りできる様に取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	県や市が行う権利擁護についての研修に参加し、施設の勉強会で復講を行い、学ぶ機会を設けている。又、2名の利用者の方が、この制度の活用を紹介し利用されている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時は、契約の必要性(制度)やその内容について説明を行い、疑問点や質問を解決した上で締結へと結びつけている。改定等についても同様にしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や家族会等にて、家族から施設に対する意見や要望を引き出すようにしており、また定期的に近況報告などを行い、ご家族との信頼関係が深められるように努めている。ターミナルケアに関しても説明、納得のうえでのケアプラン作成としている。	家族会を年3回実施を家族要望により年2回とし、施設に対する意見要望を聞き、近況報告やターミナルケアについても説明を行なう等、家族との信頼関係の強化に努めている。1回は夏の花火大会と日程を合わせ利用者と家族と一緒に参加し楽しんでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的カンファレンスに、業務に対する意見や提案の時間を設け、そこに出た内容を部署会議や管理者会議にかけ、法人全体の方針の一つとして決定。反映させている。	カンファレンスで職員の意見や提案の時間を設け、出た内容は部署会議や管理者会議にかけ法人全体の方針として反映している。個人面談も2回実施し、人材育成を図り、各個人の目標設定や資格取得への支援等、向上心を持って働ける職場となるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談を年2回実施し、人事考課を用い、人材育成を行っている。各個人の目標設定と達成状況が明確となり、向上心を持って働ける職場となるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会、勉強会の予定を掲示板に掲示し、受講を促したり、日々の業務の中で助言等を行い、個々のスキルアップを図るように働きかけている。また、資格取得については支援し合格へ繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	多職種連携会議に出席したり、グループホーム連絡協議会を利用してネットワーク作りをしている。施設見学なども入っており、自施設に取り入れてみたい事など相談できる関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様、ご家族の想いを聴き、できるだけその想いに近づけるように(不安や困りことが軽減ずつ様)当施設でできるケア内容について説明を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族との面会で、困り事、心配事、不安な事などが無いからお聴きして、新たな要望にも安心してご利用いただける様にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報収集を行い、その方が何を必要としているのか必要なのかを見極め、必要としている事を理解し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	意思決定は、本人様にある事を忘れず、その人らしく、日常生活を共に過ごしていただける様に心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時、共に外出、外食されたり、現状を説明している。ターミナル期においても、できるだけの支援を行い上記の継続を可能としている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容室を利用されたり、同地区の方のデイサービス利用時や受診先で知人の方々と会話される機会を持つようにしている。	馴染みの美容室・デイサービス利用者・病院受診で顔馴染みの人たちとの会話の機会を大切に、馴染みの人達との関係が途絶えないように支援している。本人の思いを主に、家族と一緒に外出や外食等働きかけ、日常生活を共に過ごしていただけるよう心がけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりが互いに声をかけ合われ、自分で出来る事は他の人の手伝いもされ、役割を持ち、生きがいとなる様、スタッフも間に入り支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他施設入居の際は、情報提供を行い、面会を頻回に行うことで、ご家族との関係を維持し、相談事等への対応もを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までのご本人様の生活歴を考慮し、ご本人様やご家族の意向を確認して、思いの把握に努めている。	今までの生活を把握し、ここでどんな暮らしがしたいか、ここで何をしたいか、本人の思いを十分聞いて本人の意向の把握に努めている。何気ない会話の中から本音を受け止め、可能な限り思いや意向に沿うように努力している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様やご家族からの情報を得たり、また、これまで利用されていたサービス事業所からの情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人様の日々の様子や、記録等から現状を把握し、ご本人様の出来る事、出来ない事等を定期的カンファレンス時に検討している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月毎のケースカンファレンスで介護計画の評価、見直しを行っている。またご家族の意見も取り入れ、ご本人様の状況に応じ計画を終結したり、新たな課題は介護計画に追加している。	3ヵ月毎のケースカンファレンスで評価見直しを行ない、ホーム長・リーダー・ケアマネ・担当職員とで理事長の訪問診察日に担当者会議を実施し、個人記録や日々の記録での気付き等を取り入れ、理事長の助言を受け、利用者一人ひとりの思いや意見と尊重し、その人だけのオリジナルプランを作成し、プランにそった個別ケアに取り組み本人の生活の安定に繋げる努力が見られた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録用紙や日々の記録用紙で気付いた事や、取り入れた事等の情報をスタッフ同士で共有し、介護計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様の要望を一番に考えるようにしている。 ご家族のお泊りなども受け入れ、可能な限り、ご希望に添うようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアとの交流会、地域振興会で行われる行事に参加。施設で行う行事に地域の方を案内するなど、交流の機会を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な訪問診察や必要があればご家族と連絡を取り、専門医への受診も促している。また、受診の際は、主治医に情報提供を行っている。	かかりつけ医を継続している利用者もある。定期的な受診は家族付き添いとしているが、職員が付き添い病院で待ち合わせ、情報提供を行なう等の対応を行なっている。毎日のバイタル等の変化・健康状態は看護師に報告し、迅速に対応出来ることで家族の安心に繋げている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタルチェックや身体観察を行い、異変が見られた際は、看護師に報告し、状態に応じて受診に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、介護サマリーにて情報提供を行っている。また、入院先への訪問を行い、情報交換し退院時に備えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りについて説明を行い、家族会でも終末期について話すなど、ご本人やご家族の意向を聴くようにしている。重度化した場合は、頻回に話し合い、意向を聞くように努めている。	入居時、看取りについての方針を説明し、家族会においても看取りについて説明し終末期の対応を意識づけている。これまでも看取りの経験があり、施設内でも研修を行ない、家族には可能な限り施設で対応出来ることを伝えている。ターミナルが近づくなら、医師付き添いのもと再度説明を行ない了解を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内での全体研修において、緊急時の訓練を行っている。また、感染症の時期には、看護師を中心に施設内でも研修を行い、予防に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、火災、自然災害を想定した避難訓練を消防署の協力を得て行っている。避難場所は、地域の協力を得て、高台にある病院へ、徒歩、車両にて避難訓練を実施している。	年2回避難訓練実施している。運営推進委員も緊急連絡網に入れてあり避難訓練時にはトラックを持って参加し、車イスごと荷台へ乗せて避難場所へ移動する等の協力を得ている。玄関には緊急バックを用意しすぐに車に乗せられるよう準備されている。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄誘導は耳元で小声で行い他者に気付かれないようにしたり、相談事などは居室で聴いたりし、また居室に入る際は、ドアをノックし訪室するようにしている。個人情報保護に関しては、法人全体でシステムを構築している。	利用者一人ひとりに応じて、尊重した言葉かけが職員のやさしい「方言の敬語」での会話が行われている。自分だったら嫌だと思ったりはしない、利用者の思いを大切に、希望に添えるように努力している。全体が家族のような雰囲気を感じられた。	
----	------	--	--	--	--

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人がしたいことは怪我や事故などないよう見守りながら、苑庭を散歩されたり、ドライブに出かけたりと希望を出来るだけ叶えるよう対応している。金銭面でも、小額で管理できる人には、自己管理して頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	フロアや居室などご本人の居たい(好きな)場所で過ごしていただくように努めている。また無理に何をしていたくことがないよう思いを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合わせた服装で、ご本人の好みの洋服を着ておられる。また美容師に来て頂き散髪も行っている。また入居前から利用されていた行き付けの美容室がある方は、そのに行きつけで散髪されている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理作業では野菜の皮剥きや食材切り等、入居者様のできることに合せて一緒に行っている。また苑内の畑で収穫した野菜や山菜で季節感を感じられるような食事に工夫している。	法人のメニューを基本に調理担当者が菜園で収穫した季節の野菜等旬の物を多く使ったメニューにアレンジしている。訪問日も利用者の皆さんと準備した「つわぶき」や「わかめ」など山の幸・海の幸がホームをイメージした「桜」の器に並べられ、楽しい食事風景が見られた。殆どの利用者は自力で食事され、職員は食べ終わられるまで静かに見守る様子が見られた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事量、水分量は業務日誌で把握し、献立を中心に提供。 食事形態は、ご本人に合わせて、お粥、キザミ、ミキサー食、トロミ等を使用して提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。 義歯の状態を確認し、場合によっては、歯科受診や往診で対応している。口腔体操で唾液での自浄作用を期待しての実施。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、サインを見逃さない様、トイレへの誘導を行っている。また便秘、尿意のない方もトイレ誘導し、自然排泄を試みている。	個々の排泄パターンを把握しており、サインを察知し早目の誘導を行ないトイレでの排泄を目指している。いろいろな型のトイレ(背もたれの有る、無し等)があるので利用者に合わせて使い分けている。布パンツ1名やリハビリパンツ・尿取りパットの利用者等排泄の自立に向けたケアを心がけている。食事のバランスや水ビン補給にも心がけ自然排便を促している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行い、食事のバランス、水分量等に気を付けている。ヨーグルト、牛乳など乳製品を提供したり、芋類の提供で排便を誘導している。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午前、午後にとらわれず、希望のタイミングを見ながら入浴して貰っている。入浴時は出来ない部分のみ介助するよう心掛けている。また、菖蒲湯や、柚子湯等も提供し、楽しんで貰っている。	利用者の希望を優先し、午前・午後にとらわれることなく入浴出来る体制がある。介護度の高い利用者が多くリフト浴が取り入れられゆっくり快適な入浴となるよう見守の対応が行われている。季節によって菖蒲湯やユズ湯等の楽しみも提供している		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自宅におられた時の状態に近づけ、自宅で使用されていたベッドや布団等の寝具を使用していただき、また日中の外気浴や、夜間、暖かい飲み物を提供したり、冷える時は湯たんぽ等を使用したりと安眠に繋げている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬されている処方箋を個人ごとにファイルし、直ぐに見れるようにしている。毎日の服薬については、ドラッグ表を使い支援している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人様の好きな事、得意な事を把握し、それぞれに合った作業や楽しみ事ができ、時にはドライブ等、気分転換してもらえ様支援している。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には散歩に出たり、ご本人の気持ちを代弁し、ご家族に外出の相談をし、畑の見回りや仏壇へのお参りなどに出掛けられる機会を作っている。また地区行事への参加や季節折々の花を見学に外出している。	出来るだけ外出の機会を多く取り入れて、苑庭に椅子を出しての焼き芋パーティや桜の木の下での花見等を行ない、散歩を兼ねた野草摘み等楽しんでいる。家族の協力を得仏壇へのお参りや畑の見回りなど出掛ける機会づくりに努めている。季節の花見や地区行事へデイの人達と一緒に参加し、花苗を植え、花の咲くころは見物に行く等地域との交流への取り組みも行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望があれば、ご家族の了解の上、訪問販売(パン、果物、ヤクルト、菓子)等での品選びから支払いまでを手伝いながら支援している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望があれば、ご家族に電話したり、荷物や手紙が届いた際には、連絡を入れご本人と話してもらうなど、近況報告も兼ねて支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には、季節の花を生けたり、フロアの壁には、地域の方が描かれた絵手紙等を飾り、和やかな環境を作る工夫をしている。通路である廊下には物を置かないようにし、トイレは掃除、換気を小まめに行い、気持ちよく使用できる状態を保つようにしている。	玄関やリビングには季節の花が活けられ季節を感じるよう工夫されている。フロアの壁や廊下には地域住民作の絵手紙が利用者の楽しみとして何カ所にも掲示してある。庭には元の地主によって植えられホームの名となった桜の木が見られる。リビングからキッチンで料理する様子が見られ調理の音や匂いが流れ、一段高く畳の間が設けられくつろぎの場所となり家庭的な雰囲気となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人で過される時間を尊重しつつ、ソファで仲良しの人と座ったり、畳に横になったりできる場所を提供し、ご本人にとって居心地の良い場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、自宅で愛用されていた時計、タンスなど、思い出のある物や使い慣れた物を配置している。また思い出のある写真を飾り、心が休まる空間を作るようにしている。	フローリングの洋室と畳の居室で、不穏やターミナル等の状況を考慮した居室の配置となっている。自宅で使っていた思い出の家具や写真・人形等の持ち込みが多く、その人らしい雰囲気の部屋づくりとなっている。地元高校の園芸部から贈られたサクラソウの鉢植えが利用者全員に贈られ部屋に飾られていた。各部屋の入口は桜色でさくら花を型どり大きく表記してある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には物を置かず、手すりを取り付けて、誰もがストレスなく移動できるように努めている。 トイレは、入口の戸に文字で表示して、そこがトイレであると分かるように工夫している。		